

愛知県における自主防災活動の活性化モデル事業の実施報告

目次

地域の防災力を高める手法~さまざまな主体が連携して地域の防災活動に取り組む~ ………… ◆2 ・インタビュー:愛知県の防災活動から見る本モデル事業の位置づけ ………………… ◆ 4 ・インタビュー:地域防災活動におけるNPOの役割 …………………………… ◆10

Research Project on the Disaster Risk Information Platform BOSALDRIP

地域防災力を高めるためには、個人や地域コミュニティ、NPO、民間事業者、行政などをはじめとする多様な関係 者が協働してリスクに備えるという「リスクガバナンス」の考え方が必要です。リスク研究グループは、災害リス クに関する知識(専門知、経験知、地域知)を統合し、高度なリスクガバナンスを実践するための情報技術や社会 制度の研究と開発に取り組んでいます。

愛知県における自主防災活動の活性化モデル事業

災害時には、地域のさまざまな主体の連携が必要になります。地域の防災活動の中心的存在である自主防災会には多 くの期待が寄せられていますが、一組織だけで災害時の対応を行うのは困難であり、平常時における地域内での協力 関係が大切です。このような視点から、2009 (平成 21) 年度、NIED は愛知県と共同で、県内 6 市町村 10 地域・団体 の自主防災活動を支援しました。



ドラマの収録(吉良町赤馬)



一時集合場所の検討(田原市清田校区)



中学生とのまちあるき (田原市野田校区)



シナリオづくり(春日井市中央台)



パソコンによるマップづくり(豊橋市八町)



親子による まちあるき (吉良町吉田校区 おやじの会)

3つの話し合い手法

大災害が起きた時、地元行政や 地域の自主防災活動団体だけで対 応するのは困難です。また、平時 の防災活動も、行政、自主防災会 ができる内容には限界がありま す。地域の防災力を高めるために は、被災時も平常時も、地域のさ まざまな主体による連携が必要で す。そして、連携づくりの場と手 法が不可欠になります。

防災科学技術研究所(NIED)で は、地域の方々が連携しながら地 域防災力を高められるように、「① 防災マップづくり」、「②防災ドラ マづくり」、「③訓練計画づくりと 実施」、この3つを軸とした話し 合いの手法を開発しています。

①防災マップづくり

防災マップづくりは、地域の防 災資源、災害時の危険個所、そし て災害時の対応行動が記載され た、地域オリジナルの防災マップ をつくる取り組みです。

これまでの地域オリジナルの防 災マップは、紙に記入して作成す るため更新作業に手間がかかり、 印刷して地域の方々に配布するの も困難でした。また、市町村や研 究機関が発信しているハザードマ

ップ等との連携がなく、それらを 参照しながら災害対応を考えるこ とも困難でした。そこで NIED で は、地域で自由にマップを作成で きるシステム「eコミマップ」を 開発しました。eコミマップは、 (1) ハザードマップなどの各種マッ プを引用できる、(2)地域固有の情 報を自由に記入できる、(3)地域の 防災活動の範囲に合わせてマップ を作成・印刷できる、という特徴 があります。

防災マップの作成手順は、まず、 マップに入力する項目(防災倉庫 やブロック塀など)を選定します。 次に、まちあるきを行って各項目 がある場所を特定し、資源・危険 マップを作成します。そして、資 源・危険マップを見ながら災害時 の対策行動 (発電機を防災倉庫か ら避難所に運ぶなど)を検討し、 その行動をマップに入力して完成 です。

しかし、このマップだけでは災 害時に有効活用できるとはいえま せん。例えば、建設業者との連携 が無ければ、重機を使った人命救 助はできないでしょう。防災資源 を有効活用できるような連携づく りが必要です。同様に、危険を減 らすための連携、災害時の対策行 動を円滑に進めるための連携も必 要です。このような連携づくりと セットで効力が高いマップができ 上がります。

②防災ドラマづくり

防災ドラマづくりは、災害時の 対策行動をドラマ仕立てにして地 域の方々に配信する取り組みで

ドラマづくりは、まず初めに、 被害を想定します。どんな災害が どの規模で起こるのか、専門知、 経験知や地域知を総合的に判断し ます。次に、災害対応のシナリオ づくりです。「避難所をどのよう に開設するのか?」のような災害 時に起こり得る状況と課題を設定 し、参加者が防災会長、行政担当 者、民生委員、避難所管理者(学 校が避難所の場合、管理者は一般 的に校長先生が担当) などの役割 を演じ、被災時の対応シナリオを 考えます。そして、このシナリオ をもとにドラマの台本を作成しま す。作成された台本は、シナリオ づくりの参加者だけでなく、行政、 民生委員、学校などからも意見を 頂いて、ドラマ台本及び災害対応 シナリオを修正していきます。こ うして出来上がった台本をもと に、演劇、ラジオ、テレビなどの 方法でドラマを作成し、被災状況 予測や災害時の対応を地域の方々 に広く広めます。

シナリオづくりでは、例えば参 加者が校長先生になりきって「避 難所は市の職員が安全点検しない

3つの話し合い手法

①防災マップづくり

まちあるき 結果

話し合いによる 災害対応行動



専門知(ハザードマップなど) 経験知(被災履歴など)

ハザードマップなどの専門的情報や、 まちあるきによる地域の危険や資源 を把握し、地域の敵と己を把握した上 で、災害時の行動計画を地域の方々 が話し合い、地図に行動マップとして 入力します。

2防災ドラマづくり



災害時に起 こりうる状況 と課題を共 有し、課題 た検討を様

々な立場を演じながら実施します。



■話し合いの **尾成果はドラ** マ台本へと 活用されま す。ドラマ は、ラジオ、

ケーブルテレビ、演劇などの方法で 地域に配信いたします。

③訓練計画づくりと実施



要援護者の 避難支援訓練 地域オリジナル の訓練

これまでに実施してきた防災マップづ くりと防災ドラマづくりでの話し合い結 果をもとに、地域オリジナルの訓練メ ニューを作成、実施いたします。そし て、備えが十分か、確認します。

と開設できません」というように発言していきます。これらの発うしていきますが校長先生を表が校になった生活でいた生の話では、の合わせるとの認った生を表していきます。とと知りますをはいきます。とと当れないます。様々な主体との連携を使ります。

③訓練計画づくりと実施

訓練計画づくりと実施では、「① 防災マップづくり」、「②防災ドラマづくり」で考えた災害対応行動が、適切に実行できるかどうかを検証する訓練を、さまざまな主体が意見交換をしながら立案・実施します。

マップやドラマづくりで考えてきた災害対応行動は、さまざまな主体が連携してつくり上げたものです。訓練も各主体の連携なしでは実施できません。当日の訓練だけでなく、訓練計画づくりの段階から連携を組んでいる主体が集まることが重要です。

連携づくりの場

地域のさまざまな主体が連携して防災活動を行うためには、各主体が一堂に集まる場が必要でむ。ここでいう場とは、各主体がお互いに関係を作りお互いに影響とつが、別を作り出す空間のことりです。マップづくりやドラマづくり、訓練計画づくりで、さまざまが対

面式の場は非常に重要です。しか し、参加者によっては毎回参加す ることが難しい方もいます。また、 対面式の場以外にいつでも連携を 作れる場が必要になります。

また、対面式で話し合った成果の記録などはブログ機能で発信し、掲示板機能は参加できなかった方も含めた意見交換の場として利用することができます。

さらに、地域の防災に関する協力関係の状況が分かる「地域防災力評価システム」、シナリオづくりで使用する資料や記録用紙を作

成できる「災害リスクシナリオ作成システム」、防災計画の作成と実行を支援する「地域防災計画と 実行支援システム」など、地域の 防災活動を支援する機能群「地域 防災キット」を公開する予定です。 これらの機能も、地域の様々な主体の連携を誘発・強化するよる 考え方に基づいて設計されています。

愛知県でモデル事業を実施

愛知県は、東海地震や東南海地震の震源域に近く、大型台風も多く通過します。そのため、自主防災会の組織率が47都道府県で最も高く、防災活動が非常に活発です。また、県や市町村の多くがオリジナルの地震や洪水のハザードマップを作成し、公表しています。

NIED は愛知県と協力し、2009 (平成21) 年度の自主防災活動活性化モデル事業として、県内6市町村10地域・団体の自主防災活動を支援してきました。本号では10団体での取り組みについて紹介いたします。

e コミ 2.0 で防災マップを配信



モデル事業のホームページ



モデル事業のホームページも e コミ 2.0 を使って作成してい ます。 http://aichi.ecom-plat.jp

e コミ 2.0 を使った地域のホームページ



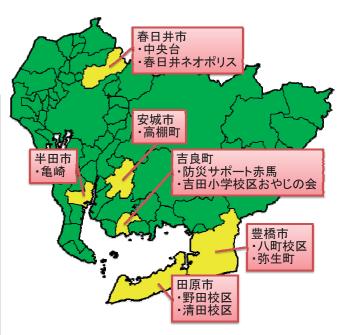
e コミ 2.0 は地域の情報を共有・発信する場として便利な機能を取り揃えています。

愛知県での自主防災活動活性化 モデル事業の概要

NIED では、愛知県および特定非営利活動法人 NPO 愛知ネットと協力し、地域防災力向上を目的とした自主防災活動の活性化モデル事業を実施しています。2009 年度、モデル事業の実施に名乗り出たのは、6 市町村 10 地域・団体です。取り組みの詳細は6~9ページをご覧ください。

各団体の取り組みの種類

		マップ	ドラマ	訓練
春日井市	中央台		0	
	春日井ネオポリス	\bigcirc		
半田市	亀崎	\bigcirc		
安城市	高棚町			\bigcirc
吉良町	吉田小学校区 おやじの会	0		
	防災サポート赤馬	\bigcirc	0	
豊橋市	八町校区	\circ		
	弥生町	\circ		
田原市	野田校区	0		
	清田校区	\circ		



愛知県の防災活動から見る本モデル事業の位置づけ

加藤義輝さん(愛知県防災局危機管理課課長補佐) 森昭夫さん(愛知県防災局危機管理課主査)

一愛知県では、防災についてどのような取り組みを行っているのでしょうか。

加藤:愛知県防災局には防災危機管理課、災害対策課、消防保安課、産業保安室の4つの課室があり、防災危機管理課では防災対策の企画調整、防災の普及啓発、危機管理の総合調整など、防災に関する司令塔の役割を果たしています。その中の啓発・育成グループでは、県民の方々に防災意識を高めていただくためにさまざまな啓発活動を行っています。

2002~2006年度に5カ年計画で、地域の防災リーダーの育成事業を行いました。年間のプログラムは、1日平均6時間を計8日間かけて行う座学の全体講座と、県内を5カ所に分けて自主防災組織の活性化を目的とする地域講座を4日間行いました。年間250人、5カ年で1250人を防災リーダーとして養成し、県としては当初の目標を達成しました。現在は引き続き、各市町村で育成を継続していただいているところです。

一今回のモデル事業に協力しようと思われた経緯についてお 聞かせいただけますか。

加藤:愛知県は、2~3 年ほど前から、自主防災組織率が 98.5%と 全国でトップになりました。しかし、組織率の高さに比べて、そ の認知度や意識、活動実態などはまだまだ十分でないということ もあり、県も市町村も何とかしなくてはならないと考えていまし た。そこで、2 年前に財団法人日本消防協会の補助事業で行った



愛知県防災局危機管理課課長補佐/加藤義輝さん(右)同課主査/森昭夫さん(左)

自主防災会のリーダー研修会のプログラムに、NIEDの地域防災のためのシナリオワークショップを取り入れてみようということになりました。こうした経緯もあって、今回の「愛知県自主防災活動活性化モデル事業」につながったと思います。このモデル事業もわれわれの啓発育成事業の一環としてとらえています。

森:もうひとつ、啓発活動として取り組んできたのが、2008 年 4月にインターネットで公開した「防災学習システム」です。県内の住所を入力すると防災マップが表示され、その地域の震度や液状化の危険度がわかるようになっています。また建物の情報を入力すると、地震の際の倒壊の危険度がシミュレーションできる仕組みも搭載しています。

「防災学習システム」はアクセス数も多く、県民の人気も高いサ イトだったのですが、その中で1つだけ不活発だったのが、「地 域防災の広場」でした。地図情報を公開して、自主防災組織が 自分たちの地域の情報をデータ入力し、地域で活用できる防災 マップを作れるようなコミュニティサイトを目指していたので すが、登録数は多いけれども自主防災組織のリーダーの高齢化 という要素もあって、なかなか使ってもらえないという状況で、 暗礁に乗り上げていました。困っていたところに、2009年2月、 NIED からモデル事業の話をいただきました。当初の提案は自主 防災組織による防災マップづくりと自治体データとの相互運用 ということで、まさに「地域防災の広場」でやろうとしていた ことでしたので、まずはこちらの仕組みや現状をお話させてい ただきました。その後再度打ち合わせをした際に、避難所運営 ワークショップや防災ラジオドラマなども含めた、総合的な自 主防災組織の活性化といった現在のモデル事業を再提案いただ

加藤:「地域防災の広場」を何とかしなくてはならないと思って いましたから、NIED からの提案はありがたかったですね。地域 防災力の向上、強化、自主防災組織の活性化という点でも、さ まざまな側面からアプローチしていくという手法はよいと思い ます。したがって、できるところは協力しましょうということ になりました。

一参加団体からは、今年度はマップづくりをやったので来年 度はドラマをつくりたい、避難所運営をやってみたいといった 声もあがっているそうですね。

加藤:既存の防災訓練ではなかなか体験できなかった新しい取 り組みですから、皆さんの意欲もわいてくるのではないでしょ うか。決められた内容をこなすだけではなく、集まって考えて、 意見交換しながら自分たちで何かをつくり上げていくというプ ロセスは大切だと思います。これをきっかけに、さらに裾野が 広がれば、地域の防災力の向上という本来の目標が達成できる と考えています。

森: 今年度は6市町村から10団体が参加していますが、基本的 にはどの団体も来年度も継続したいという意向が強いと聞いて います。

一来年度もこのモデル事業を継続予定ですが、県としてはど のような協力体制を考えていらっしゃいますか。

森:県は、このモデル事業への参加団体を決めるために、市町 村と NIED との仲介役として協力しています。今年度は8市町村 に参加を打診しました。愛知県は、尾張、三河、知多などいろ いろな地域に分かれていますので、各地域が均等になるように 候補を挙げ、NIED と一緒に各市町村に出向いて、事業説明や参 加団体の推薦依頼を行いました。

もちろん、このほかの都市でも積極的に防災活動に取り組ん でいるところもありますし、また今回打診した際に、さまざま な事業があって今年度は無理だが来年度はぜひやりたいといわ れた市町村もありますので、声をかけていくつもりです。

一この事業を通して、各地域の自主防災活動にどんなことを 期待していらっしゃいますか。

加藤:愛知地震防災推進条例では、災害に対して地域で協働・協 力して防災活動に取り組んでほしいとうたっています。災害時に は個々の取り組みだけではなく、さまざまな主体が連携すること によって、いざという時により大きな力が発揮できるだろうと考 えており、ひとつの自主防災組織だけでは対処できないこともあ りますから、地域内のさまざまな団体、学校や PTA、民生委員、 老人会、あるいは隣接の自主防災組織など、平時から連携を図っ ておくことがとても重要だと思っています。県ではこれを施策の ひとつとしています。

今回の参加団体には、ぜひ隣近所の自主防災組織にもこうし た取り組みを伝えるなど、横のネットワークを広げていただきた いですね。そのときの場の提供やネットワークづくりの面で、県 がサポートできるところがあればやっていきたいと考えていま す。県の財政も厳しい状況ですが、予算がなくてもできることで あれば、積極的にやるという姿勢は持っています。

森: 先日、今年度の参加団体の取り組み状況について NIED から 説明していただきましたが、どこも非常に意欲的で、学んだこと をさらに広げていこうという考えを持っているようです。成果が 上がるには時間がかかるかもしれませんが、自主防災組織の意欲 を引き出し、活性化させるという目的は達成しつつあるように思 います。希望としては、参加団体がさらに横のつながりをつくり、 事業終了後もこうした取り組みが広がっていけば、県内の自主防 災活動は活発化すると考えています。

そのためのきっかけづくりとして、「地域防災の広場」のペー ジに今回のモデル事業を紹介したポータルサイトへのリンクを張 りました。これを見ていただくと、モデル事業の概要や参加され た自主防災組織のそれぞれの取り組みがおわかりいただけると思 います。ぜひ、他の地域の方にも見ていただき、裾野を広げてい ただければと思います。

加藤:ぜひ愛知県外の方にも見ていただきたいですね。こうした 取り組みが全国的に広がって、各地域の自主防災組織の高度化・ 活性化につながっていくことを期待しています。

愛知県地域防災の広場

http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/modules/pico/index.php?content_id=5



愛知県防災学習システム http://www.guake-learning.pref.aichi.ip/

田原市 野田校区

田原市野田校区では、校区内 13 地区 の自治会長や自主防災リーダーが主体 となって、防災マップづくりに取り組 みました。マップづくりの過程で問題 になったのが、パソコン入力の担い手 です。eコミマップはインターネット を使ったシステムで、パソコンに慣れ ていない方々には使いにくいのです。 そこで、地域の中学校に協力を求め、 自主防災会と協働でマップを作成しま した。今後も、地域のことを良く知っ ている自主防災会メンバーと、パソコ ン操作に慣れている中学生が、互いの 長所を生かしながら防災活動に取り 組みます。

自主防災会メ ンバー中心に 集まり、防災 マップに入力 する項目を整 理しました。

10/13



項目検討(中学生)

11/10 中学生も同様 に、防災マッ プに入力する 項目を検討し ました。

撮影した写真は 地図にも反映

◆ 11/13 資源・危険の場 所を把握するま ちあるきを、中 学生と自主防災 会との合同で実

施しました。



まちあるき

防災マップ

項目一覧

危険なもの一覧

山間沢

部崖

海 川

津波

高潮

. 豊川用水

堤防

道路

電柱

定通 電線 街<mark>路灯</mark>

橋

川沿いの土地

マンホール

項目

地 水 風 その震害害 他

00

0

0

0

0

0

00

0

0

0 0

0

10

0

土石流が発生

家が流される

土砂災害

氾濫する

崩れる

提防が崩れる

陥没する

崩壊する

倒れる

切れる

i 倒れる

蓋が外れる

野田小学校区内にありつる危険なものと資源となるもの一覧



これらの項目をまちあるきで調べました。



データの入力

防災項目の検討



タ整理

12/1

自主防災会メンバーがまちあるき結果をeコ ミを使って印刷した地図上に整理しました。



◆ 12/4·11

整理した結果を中学生がパソコンでeコミ マップに入力しました。



印刷

1/27

地図を使って、今後実施するべき防災活 動について検討しました。

春日井市 中央台

春日井市中央台では、地区内にある13の自 主防災会が集う「自主防災会連合会」が主体 となってモデル事業を実施しています。9月 にシナリオづくりの手法を用いて東海・東 南海地震が発生した場合の対応について検討 し、その結果、「家具の転倒防止を広める」、「要 援護者の避難支援が問題」、「小学校や幼稚園 との防災協力が必要」など、課題が明らかに なりました。11月に行われた防災訓練では、 ボニター*や地元ホームセンターと協力し、 転倒防止の実演を行いました。現在、民生委 員や小学校、PTA などと連携して防災活動を 執り行うために、各団体への質問事項をまと めています。今後、各立場の要望を考慮しな がら、地域が一丸となって対策づくりに取り 組む予定です。



9/27

東海・東南海地震が起きた場合、中央台 でどのくらい揺れて、どんな被害が発生 するか、把握しました。その上で、被災 時にどのような問題に直面し、どのよう に行動するか、「安否確認」・「負傷者の救 援」・「小学校・幼稚園との協力」の3場 面を検討しました。検討結果を踏まえ、 防災上の課題を個人・家庭・地域に分け て整理しました。

関の整理

個人・家庭の課題(例)

防災上の課題

など

- ①家具の固定
- ②家族との連絡方法を知る(数171伝言ダイヤル)
- ③隣近所との付き合いを深める
- ④事前に家族で話し合う

①ご年輩の方(特に独居の方)への支援

地域の課題(例)

②負傷者・要援護者の搬出方法(特に高層階)

③学校などと防災協定を結ぶ



家具の固定が問題点として挙がっ たため、防災訓練ではボニター*や 地元ホームセンターに協力してい ただいて、家具転倒防止コーナー を設置し、転倒防止の実演を行い ました。

地域防災のカルテづくり



地域防災力のカルテ



カルテづくりでの結果。話し合いでは、「中学生は災害対応の担い 手としてすぐに帰ってきて欲しい」のように、連携づくりの内容案 も多く出されました。

12/20

地域の防災力の現状を把握するため、地域のさまざまな主体 が集まり、協力関係の状況を把握しました。その結果、日頃 からの協力関係はあるものの、防災に特化した協力関係はあ まりないことが分かりました。

質問票づくりに参加 された地元小学校校 長と民生委員に、質 問をしてみました。



※ボニターは春日井市独自のもので、「ボランティア」と「モニター」 を掛け合わせて作られた造語です。春日井市で資格制度を設け、 その資格をもってボランティアや市政モニターをされている方々 を指します。



シナリオづくりやカルテづくりの成果をもとに、防災に関する連 携を図りたいと考えている団体に対する質問票を作成しました。

2010年度は、「訓練計画づくりと実施」に取り組み、これま での取り組みの効果を検証する防災訓練を実施する予定です。

吉良町 防災サポート赤馬



まちあるきで調べる 項目を、海に近い地 域 山に近い地域 住宅が多い地域に分 かれて検討しました。



◆ 1/17

荻原地区をモデルに まちあるきを行い、 災害時の危険や資源 の場所を把握しまし



1/30

小学校のコンピュー ター室で、まちある きの結果や、これま でに作成した防災マ ップの情報を、eコ ミマップに入力しま した。

防災サポート赤馬は、吉良町在住のあいち防災リーダーと 吉良町防災リーダー育成講座修了者を中心に結成された、 防災まちづくり支援団体です。2009年度は防災マップづく りと防災ドラマづくりに取り組みました。



1/24

東海・東南海地震を想定 したシナリオづくりをし ました。話の前提となる 被害量を共有し、発災か ら一晩を超えるまでに起 こる課題の解決策を検討 することで、災害対策行 動を整理しました。

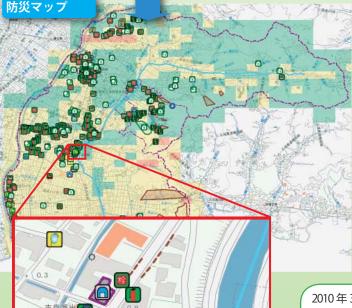
脚本家が災害対策行動をラジオドラマに台本化



ドラマ収録

2/6

脚本家がドラマ仕立てに 作成した台本を確認しま した。災害時の行動に間 違いがないか、吉良町職 員と一緒に修正を行いま した。また、「倒壊家屋 からの救出」シーンで登 場する地元建設業者に、 出演許可のご協力をいた だきました。



町営川中住宅

◆ 2/13

赤馬メンバーだけでなく、地元婦人会の方々も参加し、 ラジオドラマの収録を行いました。

2010年3月現在、効果音などを入れるなどの編集作業をしてい ます。編集が終わり次第、地元 FM 局からの放送や NIED の HP、 赤馬のeコミ HP で発信する予定です。

でき上がった吉良町防災マップ。

消火栓や建築業者などの資源箇所、ブロック塀等の危険箇所が分かる、地 域オリジナルの防災マップができ上がりました。左上の地図のように吉良 町作成の震度予測マップを重ねることで、地震対策の検討ができます。

田原市 清田校区



田原市清田校区では、各家庭に配布する防災マップを作成しました。防災マップに記載する項目を検討した結果、避難所へ行く前に地域で集まる「一時集合場所」を記載することが決まり、一時集合場所の

位置を選定しました。 また、野田校区と同様 に、マップ入力する際 には、地域でパソコン に強い方に声をかけ、 入力を支援していただ きました。



豊橋市 八町校区





豊橋市八町校区は、震災対策 の防災マップを作成しました。でき上がった防災マップ は、防災資源の項目のみですが、現在 e コミから閲覧できます。

一方、危険箇所については、空き家などのデータが悪用されるのではないかとの懸念があり、2010年3月現在、一般公開はしておりません。非公開の項目については、自主防災会メンバーのみが閲覧できるように設定されています。

豊橋市 弥生町

豊橋市弥生町では、これまで に防災資源マップが作成され ていました。今回、まちある きを行い、新たに危険個所を 調べ、防災マップに入力しま した。

また、当初は要援護者支援マ

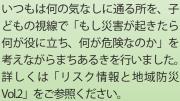




ップを作成しようと考えていましたが、悪用される恐れがあるため、要援護者を支援する方の位置が分かるマップを作成することになりました。現在、要援護者を支援する方を募っています。

吉良町 吉田校区おやじの会

吉田校区おやじの会は、町立吉田小学校に通う児童を持つお父さん方の集まりです。親子でまちあるきを行い、通学路にある資源や危険を把握し、防災マップを作成しました。







半田市 亀崎



亀崎地域では防災マップづくりに取り組みました。モデル事業の実施方法について説明会を行った後、自主的に地域の防災会メンバーが集まり、項目の選定を行いました。そして地域内6

つの地区でまちあるきを行いました。まちあるきを行った結果はeコミマップに入力し、報告会を開催しました。報告会では、地域の特徴や課題、まちあるきの感想などを発表しました。また、まちあるきの最中



に、「災害時、無線が使えるように」と考えた自主防災会メン バーが、アマチュア無線愛好家のお宅を訪問し、協力の了解 をいただきました。

春日井市 春日井ネオポリス

春日井ネオポリスでは、地域一般の 方々を巻き込んだ防災マップづくり を企画しています。2009 年度は準備 として自主防災メンバーの有志でま ちあるきを行いました。



安城市 高棚町

安城市高棚町は毎年8月に防災訓練を実施し、地域の一時集合場所や公設避難所への避難訓練や、チェーンソーを使った倒壊家屋からの救出訓練などを実施しています。しかし、避難所運営についての訓練は実施しておりませんでした。2010年の防災訓練では、これまでの訓練に加えて避難所運営の訓練を実施する予定です。



天野竹行さん (NPO 愛知ネット理事長)

一初めてこのモデル事業の内容を知ったときの感想をお聞かせください。

NIED は国の機関ですから、自治体などを通じてトップダウン型で防災に関する啓発活動などをやっているという意識でしたので、今回のモデル事業のようなボトムアップ型の取り組みも手掛けているということに驚きがありました。と同時に、そういう取り組みをされていることは、われわれにとってもありがたいことでした。例えば自治体の場合、何カ年かで区切って事業が行われますから、なかなか積み重ねが難しい側面があり、また事業の有効性の実証が求められます。

しかし、本来は地域に住んでいる人たちが自分たちの地域の ことをもっとよく理解し、問題や課題に気づき、それをどう解 決していくべきかを考えることが大切だと思います。

われわれも、事業を受託するということに慣れてしまっているところがあります。例えば防災ボランティア養成講座や災害ボランティアセンター養成スタッフ講座などさまざまな講座がありますが、ボランティア希望者にオリエンテーションして、活動してもらい、終わったらいかにクールダウンして帰ってもらうかという流れは、まさに業務です。しかしそればかりでは、結局地域の防災活動の啓発は難しいし、前に推し進めることはできない。どうすればいいのか、と思っていたところに、NIEDのこの事業と出会いました。

一この事業を通して、各地域の防災活動に変化はありましたか。

このモデル事業を通して、参加団体の皆さんは、自分たちの地域の防災について考えるきっかけを得たと思います。いざ災害が起きた時にどうなるか、ということについて一人ひとり漠然とは考えていたけれども、ワークショップで課題を出されたことで、改めて地域や自分の身に何が起こるのかがリアルにわかり、その対応策を地域の皆で一緒に考えることができました。これこそが一番の啓発活動になるということを実感しました。そして How To ではなく、マインドといったものが地域の減災に生きてくることもよくわかりました。

また、われわれが被災地に行かなければ得られないと思っていた情報も、NIED のさまざまなデータベースから取り出すことができますから、e コミなどのツールを使えば、もっと手軽に地域の減災活動ができるでしょう。このことはわれわれ自身も実感できましたし、各地域の方々にも理解していただけたと思います。

もうひとつ言うならば、これまでは自主防災組織が地域の防 災活動を担うという意識だったと思います。ですから、われわ れも彼らをどうすればその気にさせられるかということばかり を考えていて、実のところ彼らの得手不得手をあまり見ていませんでした。そうではなくて、例えば田原市では、お年寄りと中学生が共に防災活動に取り組むというモデルができました。お年寄りは、IT は苦手だけれども、子どもたちに何かを教えたいという意識は強い。一緒に取り組むことで啓発が進むし、同時に、将来地域の防災活動を担っていく次世代の育成もできます。また吉良町では、防災に最もかかわってほしい小中学生の親世代が積極的に参加してくれました。防犯には興味があるが、防災には興味がなかったというお父さん世代が、「学校で泊まろう」といったイベントや防災マップづくりに、子どもたちと一緒に取り組むことで、地域の防災活動に対する関心も高まりました。

さらに、自主防災組織というと男性が多いですが、中には 女性がメンバーに入っている地域もあります。彼女たちにとっ て炊き出しなどは得意分野です。一方で、女子高生や女子大生 になると、お母さんに料理を教えてもらうのは照れくさかった り、面倒だったりする。ならば、地域のおばちゃんたちに郷土 料理を教えてもらうという仕組みをつくり、そこで災害食も一 緒につくれば、女子高生や女子大生が防災活動に参加するきっ かけにもなります。今回の事業を通して、世代間の連携が地域 防災の向上に役立つことがわかりました。つまり地域防災を進 める NPO として、減災の視点を持ちながら市民活動を包括的 に進めることの重要性を再確認したことが大きな成果でした ね。

一愛知県全域で防災活動にかかわる NPO 法人として、今後 どのような活動を展開されますか。

例えば、お年寄りと中学生をつなげる仕組みをつくったけれども、コーディネーターがいなければ、これまでと同じような状態に戻ってしまうのではないか。われわれが離れた時にどうなるのかを懸念していますし、それが課題です。そこで、いつでも地域の防災について相談できるような場所を設けることが必要だと思っています。 私たちは県内のいくつかの市民活動センターの運営をお手伝いしていますので、そこを拠点にしてコーディネーターを常駐させ、年間の防災活動を計画的・継続的に進めるサポート活動を行う。これによって課題を克服できるのではないかという仮説を立てています。

また地域防災のヒーロー・ヒロインを誕生させ、情報発信に結び付けていくことも大事だと考えています。例えば、県域フォーラムを開いてパネリストとして登壇してもらう、マスコミに取り上げてもらう、活動を映像化して You Tube などで配信するなど方法はあります。その意味でも防災ラジオドラマへの出演などは話題になるし、良いツールだと思います。

それから e コミについては、可能性は無限にあると思いますが、いかに周知して防災も含めた地域のさまざまな活動に生かしてもらうのかを考える必要があります。地域に役立つ情報があり、それを使って活動した記録をまた e コミにアップするというサイクルをどうやって浸透させるのか。これこそが e コミの課題であり、同時にわれわれの今後の課題でもあります。

プロジェクト活動報告

私たちリスク研究グループは防 災力の向上を目指す地域の皆さん の取り組みを支援するため、全国 各地でさまざまな活動を行ってい ます。また「平常時の地域での取 り組みが災害時に役立つ」という 発想のもと、地域内の連携と協力 関係を確認していただくための 「場」としてのワークショップや 情報ツールの開発などを推進して います。本号では 2009 年度の主 な活動内容を取りまとめました。

2009 年度に研究グループが関わった地域

【新潟県】 •柏崎市 ・長岡市 【茨城県】・つくば市 【埼玉県】・鶴ヶ島市 【神奈川県】・藤沢市 【静岡県】・島田市 【愛知県】・田原市 ・豊橋市 ・吉良町 ・安城市 ・半田市 ・春日井市 • 岡崎市

凡例

: 地域での取り組み

: シンポジウムの開催や学会発表など (調査) :被災状況に関する現地調査

地震を想定したシナリオづくりを実施しました。

【4/27 静岡県島田市第三小学校区】

【5/26-6/4 愛知県内各市町村】 愛知県の各市町村にモデル事業の説明を実施いたしました。

◆ 7/15-17 自治体総合フェア

東京ビックサイトで開催された自治体総合フェアに NIED ブースを設置し、本プロジェクトの紹介と e コミ 2.0 のお 披露目をしました。

【7/30 豊前地域】

福岡県と大分県の県境にある豊前地域で防災ラジオドラマ づくりの研修会を開催しました。

【8/4-5,18-19 新潟県長岡市山古志地区】

10月に実施する震災対策訓練の内容を検討し、衛星電話を 使った通信訓練を中心とした訓練計画案を作成しました。

広報誌「リスク情報と地域防災」第1号を発行しました。

愛フェス 2009 に出展し、愛知県での取り組み内容の概要 を展示しました。

福岡県と大分県の県境という地域特性を踏まえて、山国川 氾濫による水害対策シナリオづくりを実施しました。

【4月~8月 神奈川県藤沢市立鵠沼中学校区】 地域発・防災ラジオドラマ初の放送

◆ 6/27 つくば市民レポーター 編集会議設立記念フォーラムを開催しました。

【7/9-10 新潟県長岡市山古志地区】

震度6強の地震により、道路が閉塞して集落孤立した状 況で3~7日間自活することを目指した、震災対策のシナ リオづくりを実施しました。

【7/18.25 神奈川県藤沢市鵠沼海岸 5 丁目】

2004年の台風22号による水害と同等の災害が起きると 想定して、水害対策シナリオを、水害発生の事前、事中、 事後に分けて検討しました。

(調査)8/1-2 山口県防府市

集中豪雨による水害が発生した防府市にて、被害調査を 行いました。

【8/22-23 愛知県吉良町吉田校区おやじの会】 小学生とお父さん方とが一緒に吉良町立吉田小学校周辺 のまちあるきを行い、防災マップを作成しました。

【9/4 新潟県柏崎市北条地区】

北条合同小学校、PTA 関係者、北条地区コミュニティ振 興協議会、町内会、柏崎市が連携した防災訓練を実施し ました。

(調査)9/18 兵庫県佐用町

台風9号による水害が発生した佐用町にて、被害調査を 行いました。

【9/27 愛知県春日井市中央台】

シナリオづくりの手法を用いて、東海・東南海地震を想 定し、災害時の課題と対応策を検討しました。

5月

6月

7月

8月

9月

など

【京都府】・京丹後市

【兵庫県】·佐用町

【山口県】・防府市

【福岡県】・豊前市

【大分県】・中津市

11

【10/13 愛知県田原市野田校区】

防災マップに入力する防災資源・危険の項目を検討しました。

【10/18 新潟県長岡市山古志地区】

8月に作成した訓練計画に沿って、安否確認、負傷者搬出、緊急連絡などの震災対策訓練を実施しました。

【11/14,21 茨城県つくば市筑波小学校区】

筑波山のふもとに位置する筑波小学校区にて、震災を対象 としたシナリオづくりと防災マップづくりを実施しました。

【12/1,2 新潟県長岡市山古志地区竹沢集落】 防災ラジオドラマ in 山古志(竹沢)を放送

◆ 12/10 研究プロジェクトシンポジウム

「防災力を向上する地域コミュニティの自治と絆 - リスクガバナンスの高度化と災害リスク情報の活用 - 」をテーマにし、今後の災害リスクガバナンスのあり方について討論しました。

【12/19 神奈川県藤沢市六会天神町】

冬の平日の午前中、地域住民が最も少なくなっている時に、 南関東地震が起きることを想定したシナリオづくりを実施 しました。

【1/17,24,30,2/6,13 愛知県吉良町赤馬】

東海・東南海地震を想定し、防災サポート赤馬の皆さんと 防災マップづくり、シナリオづくり、ラジオドラマづくり に取り組みました。

【1/28 茨城県つくば市いなほ幼稚園】

震災を想定したシナリオづくりを実施しました。事業者による取り組みとしては初になります。

【3/16,17 新潟県長岡市山古志地区梶金集落】 防災ラジオドラマ in 山古志(梶金)を放送

【3/21-22 愛知県岡崎市竜南中学校】

東海・東南海地震を対象に、中学生が地域の被害想定を行い、 防災ラジオドラマを作成しました。

◆ 3/24 e コミシンポジウム

「新しい公共」を支える情報プラットフォーム e コミウェアフォーラム設立記念シンポジウムを開催しました。

◆ 10/16 地理情報システム学会

10月

11月

12月

1月

2月

3月

地理情報システム学会で「分散相互運用環境における次世代型のハザードマップ、リスクマップ、防災マップについて考える」を開催しました。

【10/1,15,29 藤沢市鵠沼海岸 5 丁目】 防災ラジオドラマ in 藤沢<水害編>を放送

【11/7,14,12/2 新潟県柏崎市北条地区】

地域の情報を共有・発信する「北条ネット」の活用に向けて、市民レポーター養成講座を開催し、記事の書き方・まとめ方の講習を実施しました。

◆ 11/29 日本リスク研究学会

企画セッション「災害リスクガバナンス」を開催し、地域防災力向上に向けたリスクコミュニケーション手法のあり方について検討しました。

【12/5-6,12-13,1/16-17,2/13 地域間交流】

12/5-6,1/16 に柏崎市北条 (きたじょう) とつくば市北条 (ほうじょう) が、12/12-13,1/17 に柏崎市北条と藤沢市 六会地区が、地域間交流を行い防災に関する情報や意見の交換をしました。2/13 は 3 地区で交流いたしました。

【1/24 茨城県つくば市筑波小学校区】

公設避難所の筑波小学校、松実高校と公設ではないが被 災時に有効活用できると地域住民が考えている働く婦人 の家の3カ所の連携による避難所運営訓練を実施しまし た。

【2/21 埼玉県鶴ヶ島市第二小学校】

鶴ヶ島市立第二小学校地区町内会を中心に、シナリオづくりを実施しました。

◆ 3/7 災害リスクガバナンス・シンポジウム 「広がる絆・高まる地域防災力」をテーマに、地域防災 力を可視化する web システムと本システムを利用した

力を可視化する web システムと本システムを利用 地域防災力向上の手法について討論しました。

◆ 3/27 つくば市民レポーター

市民レポーター編集会議 第1回シンポジウム「『絆』 〜人と人をつなぐ市民レポーター〜」を実施しました。

地域の防災力を向上しませんか?

地域の防災力を向上したいとお 考えの町内会や自主防災組織、避 難所運営組織、PTA などのグルー プを募集しています。地域の防災力を高めたいという気持ちをお持ちであれば、どのような団体でもご参加いただけます。お気軽にご相談ください。また、地域の取り組みのご見学も、随時、受け付け

ています。希望される方は、研究 グループまでご連絡ください。検 討内容の都合などの理由で、取り 組みを見学できない場合もござい ますので、見学希望者は事前にご 一報をお願いします。

<シンポジウムの概要をご覧いただけます>

本プロジェクトチームでは、2009 年度に 4 回のシンポジウムを開催いたしました。各シンポジウムの報告は、特設サイトからご覧になれます。詳しくは、本プロジェクトホームページ (http://bosai-drip.jp/) からご覧ください。

<地域発・防災ラジオドラマをインターネット配信しています>

災害時の対応について地域住民の方々に広く知っていただくために、防災ラジオドラマを作成しています。ラジオドラマは NIED の HP から聴取可能です。ぜひお聴きください。(http://bosai-drip.jp/etc/bosai-radio-drama.htm)

<研究グループメンバー>

長坂俊成・臼田裕一郎・坪川博彰・岡田真也・田口仁・須永洋平 李泰榮・池田三郎・佐藤隆雄・三浦伸也

発 行 日:2010年3月31日

編集・発行:独立行政法人防災科学技術研究所 (NIED) 防災システム研究センター

災害リスク情報プラットフォーム研究プロジェクト リスク研究グループ

〒 305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 TEL 029-863-7553 FAX 029-863-7541

メールアドレス:drip-office@bosai.go.jp URL:http://bosai-drip.jp/

編集協力:(株)地域協働推進機構

プロジェクトの最新の活動をメールニュースで毎月配信しています。詳しくは上記 URL をご覧ください。